お笑いと星空案内の融合目指す

笑いのエッセンス取り入れ話術磨く

星空案内をしていると、同じ内容を解説してもリアクションは様々である。ウケが良い時もあれば、全く響かない時もある。より多くの人に星空を楽しんでもらうには、できれば「打率」を上げておきたいものだ。その為に必要なスキルは多々あるが、中でも「話術」に着目してみた。

星空案内は案内人の知識と経験で星空を楽しんでもらうが、これは一歩間違うと単なる薀蓄披露となる危険がある。お客さんの興味を引き、さらに持続させるためには、自らの知識をより効率よく相手に引き渡す必要がある。それを実現する為に最も効率的なのが「笑い」のエッセンスを取り入れることだった。

▲ R－1ぐらんぷり２０１４のエントリーステッカー。なんと１回戦を突破。プロの芸人に交じり２回戦に進出することに。

落語や漫才を見ていると、言葉の使い方が非常に効率的であることに気づく。一切の無駄がない。星空案内をしていると、ついつい「脱線」し「余談」が長くなってしまうことがある。もちろんライブで星空案内をすることの醍醐味でもあるのだが、星空案内をひとつのパフォーマンスとして見たとき、このような脱線は「グダグダ」として映ってしまうこともある。観望会が間延びし、その間にくもりでもすれば目も当てられない。よりコンパクトにするため、言葉を厳選しなければならない。

言葉を発するタイミングも重要だ。いわゆる「間」を意識すること。お客さんのリズムをこちらのリズムに乗せることで、発した言葉がより響くようになる。

話の組み立ても考える。起承転結を星空案内にも組み込まなければならない。「オチ」を用意することによって、余計な脱線も防ぐことができる。

こうして話術を磨き、「笑える星空案内」を完成させることができたら、観望会のあと「楽しかった」「星空っておもしろい！」と言ってくれる人が増えるのではないか。そう考えている。

ひとり話芸日本一決定戦に挑戦

「笑い」を意識して星空案内を続けて3年ほど経ち、ある程度自信もついてきたので、以前からの目標に着手する。「R-1ぐらんぷり」への挑戦である。「R-1ぐらんぷり」はとにかく面白いピン芸人を決める大会。2分の制限時間内でネタを競うのだ。数年間の星空案内の経験からウケのよかったネタを選りすぐり、2014年大会に出場、1回戦を突破した。残念ながら2回戦で敗退となったが、会場の反応も悪くなかった。3715人のエントリーの中から、2回戦に進んだのは1000人程度のようなので、この結果は「笑い」が目的の観客に対し、「星の話」で十分なリアクションが得られたという点でもとても大きな収穫となった。R-1には今後も継続して挑戦するつもりである。

▶ 舞台はマイクなしなので肉声で。普段はぼそぼそ喋ってる姿しか見てないスタッフが驚く。「星カフェSPICAスタッフブログ」より。

keisuke プロフィール

1985年生。星カフェ®SPICAオーナー。星のソムリエ®。
はりま宇宙講座を３期生として受講。ソムリエ取得後はライブハウスなどでプラネタリウム解説などをするほか、星のソムリエ集団Sauce on Starを結成。2011年７月星を楽しむカフェバー「星カフェ®SPICA」をオープン。「星空をエンターテイメントに！」をコンセプトに、あらゆる場所で星の楽しみを喋っている。

hoshicafe SPICA
http://cafespica.com/